



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川清志  
 題字 島崎洋路

『現況調査から指針作りへ』  
 通年コース第二、三回開催「測樹・施業診断」



ブルーメライスとワイゼで測高の競演

森林の状態を知るにはどんな項目を調べればよいのでしょうか。例えば位置や広さ、傾斜、土壌などの物理的な特質。そして雨量や気温、風などの気象。こんなものが大まかに分かっているば次ぎは上ものの生物調査という事になるのでしょうか。樹木、野草などの植物、そして鳥や獣や昆虫などの動物と微生物、きのこやカビなどの菌類。



ワイゼ測高器、介添えつき

森林塾ではこの中から、秋には測量そして春には樹木分類と測樹をおこなっています。どんな木がどのくらい(本数、量)あるのかという事を調べることは、森林を管理する上で欠かせません。特に人手で作られた人工林は適切な管理がされない場合、期待される森林の機能が発揮されなくなり、良好な木材を生産する力も衰えてきます。

いまここにあるスギやヒノキの林はどのような状態なのだろうか。適切な管理がされているのだろうか。もしそうでなかったら、どのような管理や手入れをしたらよいのだろうか。そんな事を二日間かけて勉強してみます。



しばし、雨中の樹木分類タイム

傾斜地に調査区を作ったり、あるいは樹高の測定のために、三角関数が出てきて、もうすっかりどこかに行ってしまうって戸惑われた方もみえたと思いますが、そこはそれ、林分形状比や相対幹距比も無難にこなし、一日目には予想外の早さで林分現況調査表が完成したのでした。

この現況調査の方法、考え方は山の手入れになくはならないものですが、しっかりと自分のものにしていただきたいと思います。一度分かったと思っても、家に帰って復習してみると「あれ?どうだったかな?」がでてくるものです。いつでも遠慮なくお聞きください。また今回の込み具合判定は、厳密には一音林(同年齢、同一樹種)にのみ適用できるものです。複層林や混交林への応用は、いづれ島崎先生にお話していただく予定です。



通年コース第2、3回  
 5月8日(土)  
 9日(日)  
 測樹、施業診断

8日(土)  
 8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。事務局あいさつ。日程説明。今日は保科先生が4人のイントラと事務局坂野を引き連れて長野県経営者協会の企業経営者、幹部研修をおこなっている。また鳥崎先生は中条村で講演会。よって早川が講師件事務局、イントラは小泉さんについての説明

8時45分 測樹のやり方についての説明

9時30分 二班に分かれて小屋西側の伊那市有のヒノキ林を借りて測樹。ブルーメライス測高器で傾斜を測つたら24度だったので、20m四方の調査区を作るために傾斜方向は22mとした。プロット内のヒノキ全ての胸高直径と、樹高は大中小それぞれ二〜三本の測定。二〇〇年に間伐した切り株を小野沢さんに数えてもらい林齢は34年と推定。小泉班、中に一本サワラが混じる。データ取り終了後ヒノキとの見分け方の説明を受け小屋に戻る

12時 昼食



直径巻尺は極力水平に



輪尺でも樹高が測れます



h a 当たり本数は釣りざおで調べてもほぼ同じだった

標本が作りた方と持ち帰って天ぷらにした方は、篋、剪定バサミ、荷札、新聞紙、ポリ袋など。あとお弁当、雨具。  
担当は島崎先生です。なお、天候の具合により4、5回の内容が入れ替わる可能性があります。事務局にご確認ください。信州大学西駒演習林方面の予定。

**1時** 班ごとに林分現況調査表を完成させる作業に入る。材積まで計算し、込み具合判定のための密度(相対幹距比)や林分形状比の計算。今年とはとても優秀な塾生ばかりでなんと3時頃までにこれらが終わってしまつた。今年初顔見せの方々の自己紹介。とりあえず終了、解散

**2時** 班に分かれて施業方針の作成。現状の密度が18〜19なのですぐの手入れは必要ないが10年後、20年後にどういった手入れをするか。いま34歳のヒノキが60歳になった時にはどのくらいの樹高になり、何本残っていればよいか。保残木マーク法の考え方を中心に説明させてもらいました。このあたりは間伐の回に先生にもう少し詳しく話していただく事にします。質疑応答の後

**3時40分** ミズホ鋼機の江崎課長さんがナタ、のこヘルメットなどの見本を持って登場し、即売会が開かれた

**4時** 先生方の講評。終了  
参加者/江上さん、小野沢さん、角田さん、梶永さん

**5時30分** 島崎先生の山小屋。軽登山の格好がベター。標本が作りた方と持ち帰って天ぷらにした方は、篋、剪定バサミ、荷札、新聞紙、ポリ袋など。あとお弁当、雨具。  
担当は島崎先生です。なお、天候の具合により4、5回の内容が入れ替わる可能性があります。事務局にご確認ください。信州大学西駒演習林方面の予定。

**9日(日)**  
**8時30分** 島崎先生の山小屋に集合。予報は昼頃からだったはずで雨がポツポツと。島崎先生あいさつ。日程説明。

**9時** 密度(相対幹距比)や林分形状比を中心に、島崎先生にもう一度説明していただく

**10時30分** 保科先生登場。傘をさして昨日の現場へ釣竿を使った円形プロットによるヘクタール当たりの本数調べ。千本余りと、昨日と大方向近い数字がでた。小屋横の植山で丸太材積算出の説明を受け、小屋に戻る

**11時45分** 昼食。島崎先生があつという間に山椒味噌を作ってくれる。おにぎりにぬってとても美味。味噌も国産大豆と塩、米麹のみの自家製だからおいしいのは当然

**12時45分** 午後の部開始。もう一度丸太材積の復習。

**次回以降の予定**  
第4回 6月12日(土)  
伐木造材

**第5回 6月13日(日)**  
樹木分類

**第6回 6月26日(土)**  
下草刈り

**リレー通信**

どうして俺は今ここにいるのだろう  
角田 豊秋

「ごつて、俺は今ここにいるのだろう」と、考えてみると三つの事が頭に浮かんでくる。それは  
一、福島県梁川町で「校舎のない学校」の「200年後森になれ」という「どんぐりの森づくり植樹祭」に数年前から参加していたこと。  
二、オイスカのスリランカ植林ツアーに参加し

森林の仕事の中できついものの代表格。梅雨の最中が下草刈りの適期。雑草や灌木が旺盛に生育するこの時期に植栽木が覆われないようにしてあげます。造林鎌(大方マ)をお持ちの方は持参ください。ヒノキの植栽地で。刃物の手入れもありません。  
8時30分島崎先生の山小屋。担当は保科先生です。



たこと。(今年二月)

三、営林署勤めの叔父の影響を受けて育っている。この三つです。

昨年十二月七日(日)、四十五歳以上の職員全員が突然、休日返上で会社に招集されて会社の現況説明と今後の方針提示受けました。来年四月からセカンドキャリア制度を導入する、退職金制度も変更して一大改革を断行するとの事でした。

既に昨年六月で満五十五歳を迎え、一次定年も過ぎていたのでこの制度に応募し、三月末で退職することに決めました。

この時に、社内イントラネット掲示板に『オイスカ支援 プロ野球OBリーグの観戦切符を希望者に交付』という記事が掲載されていた。興味があったので記事を読んだら、札幌での試合だったので観戦は出来ませ

んでした。このとき、全く知らなかった「オイスカ」という言葉に惹き寄せられて関連リンクのホームページにジャンプしたところ、「オイスカスリランカ植林ツアー参加者募集」という画面が目飛び込んでまし

数年前から、福島県梁川町で『校舎のない学校』の”どんぐりの森づくり植樹祭”に参加していたこともあって、この記事を読みました。ツアー日時は平成十六年二月二十二日から二月二十七日で、募集受付期限は十二月二十五日という内容でした。既に年末からのスリランカ旅行を決めていたので、このときは参加を見合わせました。(が、後述のように年末からの旅行から帰った後で、急遽参加した訳です。)

一、福島県梁川町で『校舎のない学校』の「200年後森になれ」という”どんぐりの森づくり植樹祭”に数年前から参加これは「200年後森になれ」をスローガンに毎年四月二十九日(みどりの日)に植樹をおこない、夏休

みには下草刈り、秋には十一月三日(文化の日)にどんぐりの種まき体験、冬期間に除伐と炭焼きを行っている。楽しみながら学んでる自主活動の集団(学校という名の仲間)。私の場合は野次馬応援的な立場から参加を始めて、その中で様々な事を学びかつ考えさせられる事が多くありました。そんな中で、押しかけ参加ながらも回を重ねるに従い、今のような植樹中心の活動でいいのかな、除伐や下草刈りを適切に行うにはどうしたらいいんだろうという疑問も湧いてきて、

を設立したので、国内を案内しますから来てみませんか、とのお誘いでした。クレイさんと我が家との出会いは十三年前。一九九〇年十二月二十四日(一九九一年一月一日、我が家で初めて海外旅行をしました。(しかし何たること、私を除いた妻と子供達の四人で)この時に案内してくれた日本語ガイドがクレイさんでした。彼がとて素晴らしい方だったという事で、帰国してからクレイさんとの交流が続ききました。長女が大学へ入ってから一ヶ月ほどクレイさん宅にホームステイしたり、クレイさんが来日した折に、何度か東京でお会いしたり、一度は仙台の我が家にもお出で頂き泊まって頂いた事もありませんでした。その度、私自身がスリランカを訪問した事は一度もありませんでした。そこで今回、思いきって家内と共に出かける事にしました。

十二月末の、私にとって初めてのスリランカ旅行は、大変素晴らしい旅となりました。何よりも穏やかで敬虔な仏教徒のスリランカ人(シンハラ人)。この人達の魅力で

した。仏教遺跡を中心とした七つの世界遺産。こんなに素晴らしい仏教文化を育んでいた国が、遙か南のインド洋上に有ったとは、実際に出かけてこの目にするまで、全く知りませんでした。(本当に恥ずかしい事ですが)しかしこの素晴らしい伝統を持った国が、今は大変厳しい貧困にあえいでいます。(宗教・民族問題に端を発した内戦による荒廃がもたらした結果かと思えます。)それでも現在は停戦協定が結ばれて内戦も休止しており、懸命に国造りに取組んでいて、子供たちの表情がとても明るく生き生きとしています。この子供達を見てみるとこちらの気持ちまでが明るくなってきました。会社を辞めたらこの国と関わって生きたいものだなと思つて帰ってきました。

二、オイスカのスリランカ植林ツアーに参加。昨年十二月二十七日初めて、スリランカへ行ってきました。旧知のスリランカ人、N・Bクレイさんの誘いによる旅でした。クレイさんはコロンボ市に隣接するアンゴダ村で幼稚園を経営しており、そのクレイさんが昨年六月スリランカで旅行会社

十二月末の、私にとって初めてのスリランカ旅行は、大変素晴らしい旅となりました。何よりも穏やかで敬虔な仏教徒のスリランカ人(シンハラ人)。この人達の魅力で

帰国後の一月末に、オイスカ宮城県支部の松枝さんとお会いし、オイスカの概要や活動について話を伺いました。それで、急遽、オイスカスリランカ植林ツアーへの参加を決め、二月一九(二十)八日の十日間、再度スリランカを訪れました。

今スリランカでは、「子供修センター」設立の計画がありますので、どうぞ宜しくお願

# リレー通信



山造りの楽しさを知る  
松岡 浩

去年の夏、集中コースに初めて参加し、山造りの楽しさを学びました。今年の四月からは体力、技術共未熟なのを顧みず専門コースにはいり、汗をたくさんかいているところ。

私は学生時代、六十年前後ですが安保闘争が盛んな時代、「安保反対！岸を倒せ！」と連呼しながら、国会議事堂前をデモ行進し、授業をサボっては山登りと冬はス



キーに明け暮れしておりました。

四年生の秋、南アルプスを北岳から光岳まで縦走し、光岳からの最後の下りでは森林鉄道が休みで動いてなく、軌道を延々と歩き、寸又峡にやっとの思いで着いたのが昨日のように思い出されま

す。スキーでは、志賀高原の高天力原のただ一軒の旅館の夏用バンガローに泊まり、先輩の叱咤激励に登っては滑り技術の習得に努め、東館山の樹林の中を滑ると言うより歩いた記憶が残っています。春、焼額山にツアーするのが願いましたが、果たす事が出来ませんでした。

五、六年前から、家内の故郷飯田に別宅を構えました。伊賀良北方で林檎と梨畑に囲まれ、飯田の市街地を眼下に、遠く南アルプスが仙丈岳、北岳かられんれんと聖、光岳まで眺められる所です。

又、山に登ってみたい思いが、沸々と湧きあがってきました。

日頃、飯田に出向いた時には、地元の風越山に季節

を問わず登ってはおりましたが、一昨年の夏まさに四十年振り、仙丈岳に登る事が出来ました。南アルプスほどの山も取っ付きが長く頂上を極めるには、苦勞の多い所

でしたが、南アルプス林道が開通し、北沢峠までバスで入る事が出来、かなり楽になりました。大勢の登山者と大きな山小屋には仰天しました。

その後昨年にかけて甲斐駒ヶ岳、北岳に登り、そしてアサヨ峰から早川尾根を秋に歩きましたが、登山者も少なく静かな山歩きが出来ました。今年、白峰三山の縦走と塩見岳に登りたいと思っています。

幾つかの山を歩き、高い山ほど昔のままと感じました。樹林限界を過ぎると、崩落しているところはし続けており、這い松帯はそのままの姿で、源頭も大きなカールも変わっていないようです。

中腹を過ぎ、気になりましてのが沢の荒れ具合です。堰堤が各所に有り土砂と流木が堆積し水の流れが細くなっている事です。治水の面

より手が入られた事は理解しますが、自然に一度人工的に手を加えたら、持続的に入れ続けなければならぬのでしよう。

良しとして行われてきた施策のつけが、おかげさ言えれば物質的豊かさのつけが自然環境の随所に現れ出してきた感じが致します。

今シーズン、山登りと同じく復活したスキーを八回延べ二十一日滑りました。過去四十年間の滑りを一シーズンで越してしまいました。

学生時代よく行った志賀高原は、奥志賀までスキー場は拡がり、旅館が一軒しかなくなりましたが、巨大なスキーリゾートとなっており、拡大とスキー道具の変化で私のような中級者でも焼額山の頂上から約三キロのダウンスラロームを楽しむ事が出来ました。

又、今シーズン二回ほど町のスキークラブに同行させてもらいました。メンバーは昭和一桁台が中心で会長さんは大正十二年の生まれの方です。男性、女性ともスキーをはきトレインを組み滑る姿は歳を感じさせず、ス

ピード、体力そして技術でもついていくのがやっとなりました。これから永くスキーを続けていく自信と元氣そして喜びをオールドシニアの方々から頂戴いたしました。

も、自然から元氣をもらい生きて行きたい。

森林塾で得た技術で木を伐倒し山に元氣をお返ししたい。恵まれた森林資源を後世に残す為に、環境良化の為に、大海に投げられた一滴でしかなくても、実践に移して行きたいと願っております。

二千年五月三日

## コラム

大型連休の最初、4月29日のみどりの日に、有志実行委員会主催によるKOA森林塾10周年記念回が開催されました。

当日はこれ以上ない快晴。卒業生は百名を超す参加で、会場の山荘ミルクは大いに盛り上がりました。この十年間で森林塾に来てくれた塾生はおよそ三百五十人です。三人に一人近くが出席した勘定です。

両先生や来賓の方々のあいさつに続き、卒業生の活動報告がありました。動員数ナインバーワンの足助きこり塾はじめ多くの方がそれぞれの地域で地に足の着いた活動をされていくと嬉しく感じました。

最高に盛り上がったのが三分間アピールタイム。学校の先生からドロップアウトした巨漢藤井先生。内側から

少しづつでも変えて行きたい、という沼田さんから森林組合組。長野県間伐コンクールで県林業経営者協会会長賞を受けた山づくりをおこなう上原、藤野母娘など、たくさんの方が飛び入りですばらしいアピールをしてくれました。

十年間という重さを感じた一日でした。お忙しい中参加してくれた懐かしい皆さん、そして企画から実行まで大仕事を成し遂げた大野委員長はじめ実行委員の皆さん本当にありがとうございました。

## おわりに

いよいよ次回は伐木造材。そして続いて下刈り、間伐、伐出と、森林塾もいよいよ佳境に入っていきます。伊那市周辺は年間降水量が少ないのですが前は降られてしまっていました。せめて開催日は晴れて欲しいですね。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994



E-mail:  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp